

ぶらたなす

NO.4

文月

(ふみづき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2024.7.25

興味のある本から!!

梅雨の候、雨が降り続きジメジメとした季節となりました。さて、クラスマッチも終わり、いよいよ夏休みですね。雨が降り続き、室内にいる時間が多いこの時期、涼しい図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。本といっても難しい本や長い本ではありません。図鑑や雑誌など、まずは自分が興味のある本から読んでみましょう。そこから読書感想文につながる本との出会いのヒントがあるかもしれません。

読書感想文頑張りましょう。
(2-4 図書委員)

図書館長より

押忍！ 図書館長です。今回は、夏休みも目前ということで、とっておきの名作をご紹介します。林亮介（はやし・りょうすけ）著、『迷宮街クロニクル』全4巻（GA文庫）。この小説と出会えたことだけで自分の人生の収支はプラスになると思える程に、私が最も感銘を受けた作品のひとつだ。

一説によれば、「異世界・チート・モテモテ」がラノベ業界を席捲して20年ほど経つそうだが、本作はその真逆。2001年7月、比叡山の麓に突如として現れた謎の大迷宮。凶悪な怪物どもが跋扈するそこは、しかし、それらの肉片という稀少物質の宝庫でもあった。現代のガリンペイロである探索者の死亡率は、実に14%。03年11月、真壁啓一は、卒業目前の大学を辞め、恋人を東京に残したまま、第二期募集のテストに参加する――。現代の京都が舞台とは言え、四半世紀も昔の話なので、若干の古臭さは否めないが、君達の親父どのやお袋さまが青春を過ごした当時の匂いを嗅いでみるのも、また一興だろう。

本作は群像劇の色が濃い。物語における主人公とは、一般に「語り手によって内面を語られる登場人物」と定義されるが、それは真壁くん一人に限らない。「チーム笠置町」の仲間はもちろん、他の部隊の探索者、その家族、訓練場の教官、迷宮探索事業団の職員、鍛冶師、商社のビジネスマン、研究員、バーテンダー、コンビニの店員……。林が本作で描き出したのは、「迷宮街」という現象そのものだ。

林の筆力の源は、膨大な読書量に裏付けられた知識と、「とにかくやってみよう」の精神がもたらした多彩な経験だ。読むとなれば、古代ギリシャの叙事詩から国際政治学まで。やるとなれば、女装から羊の丸焼きまで。本作には人並み勝れた傑物がたくさん登場する（そして死ぬ）が、その誰にも、林の血が脈々と流れている。私は、彼らの生（と死）から、数多くのことを学んだ。今夏、君達の読書生活にも、運命的な出会いがありますように。

図書委員のおすすめの本

『恋する伊勢物語』

俵万智：著
筑摩書房

みなさんは伊勢物語を知っていますか。伊勢物語は125枚からなる短編の物語で、在原業平をモデルにした主人公がさまざまな恋愛や冒険を通じて成長していく物語です。代表的なものは業平が東国に旅立ち、旅の途中で出会う人々や風景が美しく描かれている「東下り」や業平が自分とは身分の釣り合わない女性を盗み出して、逃げたのですが、その女性は夜更けに鬼に食べられてしまうという「芥川」などがあります。これらの物語を元高校の先生である俵万智さんが面白く、分かりやすく書いた古典エッセイがこの「恋する伊勢物語」です。「東下り」や「芥川」は高校の授業でも扱う内容です。ぜひ読んでみてください。